Letter of Talk

斎藤 美雪、寺山 祐策
武蔵野美術大学 視覚伝達デザイン学科

Abstract

本研究は、コンピューターが普及した現代においての、印刷メディアの新しい可能性を考えたときに、考え方の基礎として、必要と思われることを提案したものである。二人の会話をテープに録音し、それを文章におこす。その文章を用いて、様々なカテゴリーを当てはめ文章を組み換える。カテゴリーは「音声」「意味」「構造」の三つの要素のひとつから成る。「音声」は、話し手の声(音、時間)を視覚化する。「意味」は、会話の内容(主題、話し手の個性)を視覚化。「構造」は日本語の持つ構造(文節、品詞、時制など)を視覚化する。これらの三つの要素から文章を捉えなおすことにより、人の発する音としての言葉を、見える形にするという日常的な作業の本質を認識し、また新たな理解を喚起することができる。